
なれあい

森かえで

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

なれあい

【コード】

N9998A

【作者名】

森かえで

【あらすじ】

部屋の中の男女の様子を、駄目男の視点から描きました…暇潰しに、さくっと読んでみてください。

カップラーメンの容器の中、おぼれてる俺の意識。箸ですくい上げてもぐったりしてて、もう甦ることもないかな、なんてぼんやりと感じてた。

「ねえ」

「ーんあ？」

「なにしてんの」

女が俺のベッドの中に潜って、顔だけを布団から出している。

「なんでさつきからずっとラーメンつついてるわけ？」

「なんで、なんで、なんで？ 理由ばっか聞いてんなよ、てめえは。どうにもうざってえ。」

女がこつちへ近付いて来る。裸で谷間作りや、お誘い成功できるとでも思ってたのかよ…

「ねー・え？」

しょうがねえ、擬死だな。箸を置いて、テーブルの脇にごろりと横になる。

「え、寝るの」

ちよつとつわずった声、焦ってるな。

「ねえ」

裸体を背筋になぞりつける。色仕掛けにでたかな。

何されても起きねえよ。

まぶたから透ける蛍光灯の光。その中に、すくい上げてやったアイツが見えた。

ああ笑ってやがるよ。いつ生き返っちまったんだろ。

そうだよ。自分でもわかってんだ、もうすぐあの女の元に戻ってくこと。ごめん、とか怒んなよ、とかぼそ言いながら、小さい胸を揉みしだきにかかること。

もっかい死んでろよ。おまえいると、こんな馴れ合いを気持ち悪いって感じちまうんだよ。

頼むから、もう生き返らないでくれ。女、抱きてえんだ。

まぶたの裏で、意識を押し潰した。潰れた音と一緒に笑い声の切片が飛びだした。

ただ、それを恥ずかしいと思う意識自身をちゃんと死なせたのだ。俺はそうして、ゆっくりと目を開けた。

(後書き)

小説といえないくらい短い作品ですが……；

読んでいただき、ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9998a/>

なれあい

2010年12月13日11時54分発行